

# 働き方改革



長野県長野工業高等学校 土木科  
倉石琉之介、今村暁

# 働き方改革とは

- 1億総活躍社会実現に向けた最大のチャレンジとして当たり前だった日本企業の労働環境を大幅に見直す取り組み。

# テーマ設定の理由

働き方改革の現状を知りたかったから。

働き方の問題点が気になったから。

働き方改革の定義について

知りたかったから。

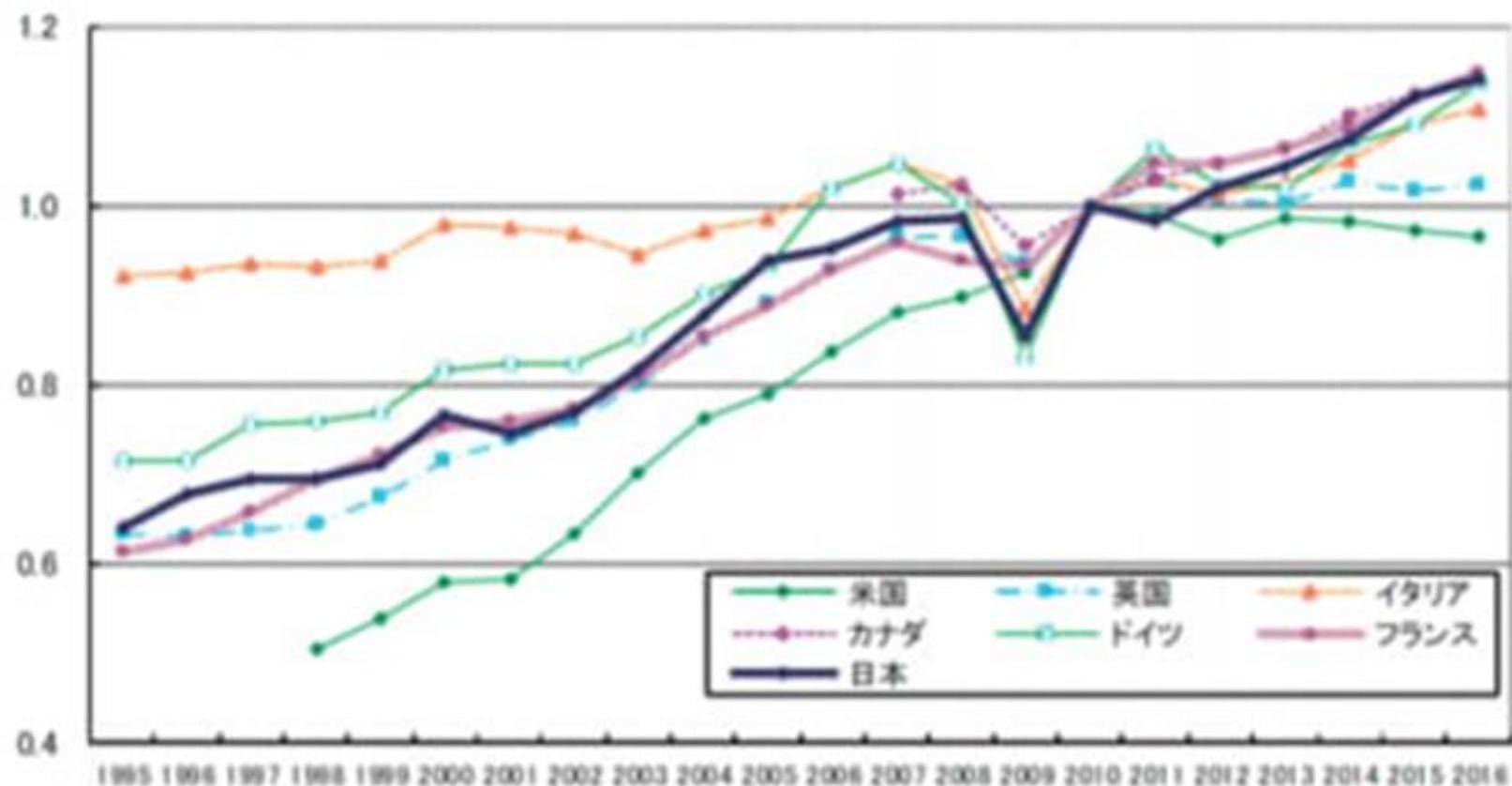
# 現状

スムーズに改革が進まず、社会全体に浸透していない。

日本は1年間で1680時間、1日14～15時間働く日もある



図 111-6 製造業の実質労働生産性の時系列変化 (2010 年を 1 とした時の上昇率)



労働生産性平均上昇率

	1995～ 2016年	1995～ 2009年	2010～ 2016年
米国	3.2%	5.7%	-0.6%
英国	2.3%	2.8%	0.4%
イタリア	0.9%	-0.3%	1.7%
カナダ	1.3%	-2.9%	2.1%
ドイツ	2.2%	1.1%	2.1%
フランス	3.0%	3.0%	2.3%
日本	2.8%	2.1%	2.2%

※データが限定的に2016年:1994年以降、カナダ:41年以降

資料：公益財団法人 日本生産性本部「労働生産性の国際比較」  
備考：実質労働生産性は、GDP/従業員数（購買力平価 PPP 換算）で計算

# 問題点

人件費や導入ツールなどコストが高い。

従業員のモチベーションの低下。

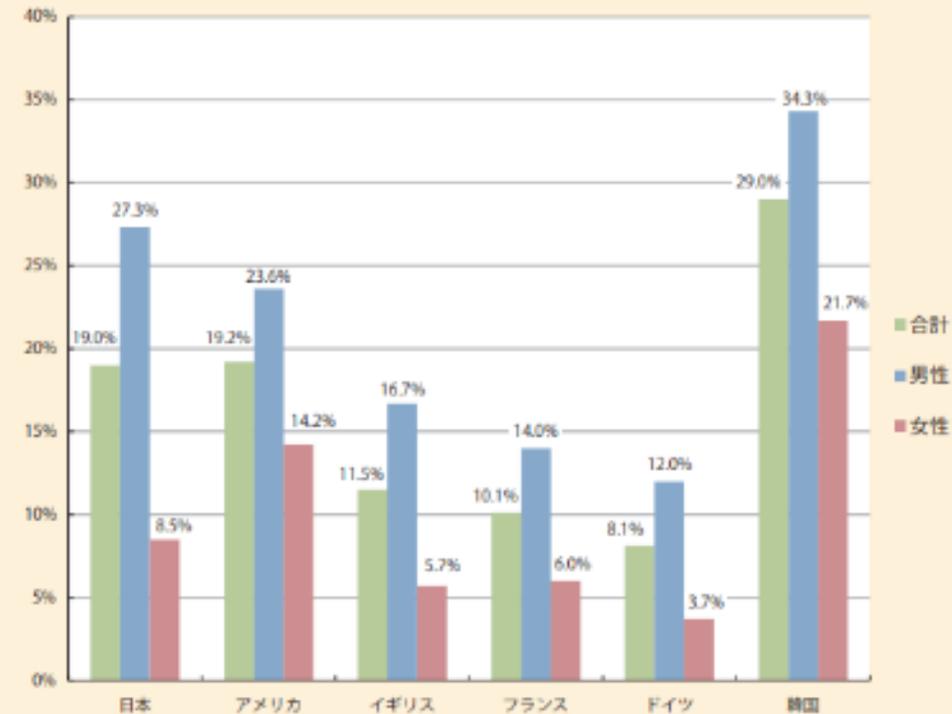
ワークライフバランスの悪化。

労働生産性の低下。

残業時間が長い。



第 1-20 回 諸外国における「週労働時間が 49 時間以上の者」の割合（平成 30 年）



（資料出所）日 本：総務省（2018 年平均）労働力調査  
その他：ILOSTAT Database (<https://www ilo.org/istat/>) 2019 年 7 月現在  
（注）平成 30（2018）年における週労働時間が 49 時間以上の者の割合を示したもの。（ただし、韓国は平成 29（2017）年）

# 今後の課題

働き手の増加と、労働生産性の向上。

男女雇用の処遇の改善。

業務内容の見直し。

働きやすい環境を整備（従業員のモチベーションが低下しないよう、有給休暇の完全消化）をする必要がある。

# 10代からの提言

ワークライフバランスの悪化をなおし、  
長時間労働をなくす

業務内容を見直して労働環境をよくして、  
より良い社会にする。

# 考察・感想

日本は他の国に比べて労働時間が長く、労働生産性も低いことがわかった。

日本は他の国と違って働き方改革があまり進んでいないと思いました。